

科目分類	専門職の教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	担当セメスター	区分	単位数	授業時間数
73001	1	前期	必修	2	30
授業科目名 (英文)	体の仕組みと働き I (概論、血液と免疫系、循環器系、呼吸器系、神経系) (Anatomy and Physiology I)				
担当教員名	野溝 明子				
授業の概要及び到達目標					
<p><概要></p> <p>看護は人を対象とする。したがって、対象とする人の体がどのような仕組み・働きで成り立っているのか理解する必要がある。本講義では、生命の維持に不可欠である呼吸器系・循環器系・血液（体液）、栄養分を吸収するための消化器系などについて解説し、人体を理解するためにもっとも基本的な知識と概念について学ぶ講義である。</p> <p><到達目標></p> <p>今後看護学を学んでいく上で必要となる人体に関する知識を得ること。さらに、人体を対象とする専門職者として人体に興味・関心を持ち自ら学習する姿勢が身につくこと。</p>					
準備学習等					
<p><講義の予習></p> <p>次回の講義内容をシラバス次ページ「授業計画」を見て把握し、配布資料や購入した図書の該当範囲に目を通すことで、次回の講義でどのような説明がなされるのか、次回の講義でどのようなことに注意して聴けばよいのかを確認して講義に臨めるように準備する。</p> <p><講義の復習></p> <p>講義中配布資料に書き込んだ事項を整理する。さらに、購入した図書（講義開始後に指示します）を用いて、受講した個所を読み、講義内容の理解を深めるようにする。講義内容や配布資料、参考図書で理解できなかった部分や疑問に思った部分は、放置せず、質問に来るなどして疑問を解決するように努める。</p>					
成績評価の方法	定期試験 100%				
テキスト	講義時に配布する資料 坂井建雄ほか著、「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学」第10版、医学書院、2018				

参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・竹内修二著,「読んでわかる解剖生理学テキスト」,医学教育出版社,2014 ・竹内修二著,「解いてわかる解剖生理学テキスト」,医学教育出版社,2014 ・坂井建雄ほか著,「ぜんぶわかる人体解剖図」,成美堂出版,2010 ・高松研ほか監修,「NEW 生体のしくみ標準テキスト 新しい解剖生理」第2版,医学映像教育センター,2009
備考	<p>疑問に思ったことはぜひ質問してください。特に、復習をすると理解できない点が生じることが多くあります。メールで質問しても構いませんので、放置することが無いようにしてください。</p> <p>各回の講義は進度も速く内容も多くなります。1回欠席をすると取り戻すのは困難になります。できる限り欠席はせずに参加するようにしてください。</p> <p>定期試験の前に練習問題を配付しますので、必ず自分で解くようにしてください。</p>
授 業 計 画	
<p>【人体の仕組みと働きの基本】</p> <p>第1回 人体の構成</p> <p>第2回 皮膚の構造とはたらき</p> <p>【血液と免疫系】</p> <p>第3回 血液</p> <p>第4回 免疫系</p> <p>【循環器系】</p> <p>第5回 血液循環の特徴と心臓の仕組み</p> <p>第6回 心臓のポンプ機能と血管系・血液循環の調節・血圧</p> <p>第7回 微小循環とリンパ系・体液</p> <p>【呼吸器系】</p> <p>第8回 呼吸器系の構造</p> <p>第9回 呼吸の仕組み（肺胞の機能）と酸素・二酸化炭素の血液による運搬</p> <p>第10回 呼吸運動と呼吸の調節</p> <p>【神経系】</p> <p>第11回 神経系の構成 神経組織と神経系を構成する細胞</p> <p>第12回 脳や脊髄を守る構造（髄膜・脳室・髄液）と脳の血管系</p> <p>第13回 脳の働き</p> <p>第14回 脳神経と感覚器（視覚器・聴覚器）</p> <p>第15回 脊髄と脊髄神経</p> <p style="text-align: center;">定期試験</p> <p>※授業の進捗度などにより変更する場合もある</p>	